

## 会 議 報 告 書

会議名	第3回（仮称）第2次21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会
日 時	平成21年12月16日（水）午後7時00分～8時50分
場 所	市役所 2階 本館会議室
出席者	市 只木秘書政策室長、鈴木政策班長 政策班 赤羽主幹、和田副主幹、杉山策定委員

### 1 開 会(政策班 和田副主幹) 19:00

開会及び資料の確認

### 2 あいさつ(副会長)

### 3 検討事項(進行:副会長)

#### ○矢板市「現状と将来の見通し」「良いところ、悪いところ」について

#### ○市民アンケートの結果について（事務局）

アンケートについて説明したのち、2つのグループに分かれ前回からのワークショップの続きを行う。そのまとめ結果について、発表していただきたい。

#### （アンケート結果について説明 特に目立った変化等）

- ・平成17年度とほぼ同様の内容で行った。比べ今の傾向を図る。前回は小泉劇場の時である。
- ・問7 仕事の関係で5年以内に転出予定の方が増えた。仕事の関係か？
- ・問12 51分野について重要度と満足度について回答いただいた。
- ・重要と回答いただいたところは、1番、2番、健康・医療関係 28番、ゴミ関係、29番、30番、31番、消防・防災・防犯関係 47番 就労場所 との回答が多かった。
- ・満足度が高いものは、1番、健康施策関係、27番、ゴミ関係、42番、上水道関係、48番、市の窓口サービス関係であった。
- ・満足度について、前回と比較した。下がったものが9分野、残りの42分野が前回と同様及び上がった。
- ・主に、下がったところは、2番の地域医療関係、30番の消防・救急関係、34番の公園、緑地関係であった。
- ・主に、上がったところは、5番、6番、保育、児童館、学童保育の分野、と18番の図書館関係、であった。
- ・今回から中学生に対してもアンケートを実施した。
- ・問3 これから矢板に住みたいかであるが、わからないという回答が多かった。
- ・問6 スーパー、モール、お店等が欲しいという回答が多かった。
- ・問7 矢板市が誇れるものであるが、豊かな自然と農作物という回答が多かった。次に花火大会等の市民力である。

- ・問8 地域活動への参加率であるが、していると時々しているを合わせても30%に満たない結果となった。している子どものUターン率が高いという他団体の統計結果もあり、子どもと地域の関わりということが今後の課題の一つといえるのではないか。
- ・問10はフリーな意見である。

19:30

(2つのテーマについて、2つのグループに分かれ、付箋紙によりまとめ作業)



20:10

【現状と将来の見とおし】(委員)

- ・教育が薄いので付け足した。矢板市は学力テストで平均を少し下回った。学力の低下があるのかな。非常に今均一化と画一化しているが、学力のあり方、山型がM字型になった。できる子、できない子がはっきりしている。過保護、無関心 身近であるが、サタデースクールなども挙げたが、国の制約も強いので手を出しづらい。
- ・どこを切り口でいくか、環境都市宣言などをしたので、環境から考えてみると、特に自然環境はいいものが多い。すぐれた自然環境を活かして、売りにしている姿勢が足りないのではないか。たとえば、自然環境を活かした農業・観光・産業を振興することが必要ではないか。
- ・こういった環境を視点として色々と組み合わせるときに、仕組み作りが難しい。人材がないわけではないが、結びつける仕組みがない。佐野市には、ボランティアセンターがある。このような人を結びつけるような仕組みが必要。全体を繋いでいく。
- ・産業、ミシン目のおり、工業、農業、等でわけて考えたが、それぞれでは、特徴が弱いのではないか。ただ今6次、産業といわれている。組み合わせ、かけ合わせていくことが大切。道の駅もできるし、農商工連携の仕組み。やはりそれを行っていくのにも繋げていく仕組みづくりが大切。
- ・アンケートでも関心が高かった医療の分野であるが、人材、専門職が必要なので、独自の取組はやりづらい。介護予防、等、高齢者が生きがいをもって暮らせる仕組みづくりが必要。
- ・インフラは、街中は不満がある部分はあるが、矢板市と他を結びつける道路網は整備されている。そのため、矢板に魅力がないと外にってしまう。

### 【良いところ】(委員)

- ・高原山、私たちも知らなかったが、大学生のオリエンテーリングや自転車などで使っている。これをもっと市内外にPRしていく必要がある。
- ・フットサルパークもあるので、サッカーが盛んであるというPRも必要。
- ・教育分野では、小中一貫校もすすんでいる。また使われなくなった校舎の利用を考えていかななくてはいけない。市内には高校も多いので、市外から多くくるため、日勤の時間帯は人口が多いのでそこを活かしていく。
- ・人については、実直、素朴、近所づきあいがまだ残っている街である古き良き田舎である。
- ・インフラは、JR、国道、高速などすぐれている要素が多いが活かしていない。これをもっと活かしていく。
- ・産業では、亀山には負けるが、シャープさん城下町の要素が強い、これを活かしていければよい。
- ・観光では、ゴルフ場が多い。丸山茂樹さんの関係のゴルフ場もある。泊まれる場所が増えればよいのではないか。
- ・ゴミの分野では、矢板市は良い方のランクにあるため、これを活かしてイメージアップにつなげていければよいのではないか。

### 【悪いところ】(委員)

- ・話をしている、いろいろなデメリットがあるということ共有できた。
- ・アンケートで出てきた結果と、皆で話していた結果との方向性がだいたい一致していた。
- ・皆で出していった意見で不足している部分は、医療関係であった。
- ・これからの充実を望むといったところの医療福祉関係、雇用の場といった産業と教育関係がアンケートの上位にあがっていたと思うが、それらは、確実に意見としてもでてきた。
- ・しかしながら、改善できるところとできないところがあると思う。
- ・1番(医療)、2番(産業)のところは、正攻法では解決は、むずかしい。なるべくコストをかけず工夫をしなくてはいけない部分である。
- ・教育の分野では矢板市の特徴がはっきり見えないのではないかという意見がでた。
- ・医療福祉や教育、環境等のボランティアのベースである「人」がどのように係わりあえるか、が基本であると思うが、気質や、経済状況、環境、まちづくりに関する関心の低さがベースにあるので、そこをうまく活性化していかないと、ボランティア、NPOにしても活性化は難しいのではないか。
- ・悪いと言いつつも、期待ができる分野として、環境とか自然の資源の利用などがあるが、矢板に住んでいる人は、重要でないと思っていることが、外から見ればありがたい存在であるということがある。
- ・例えば、外から来たオリエンテーリング、自転車、をやっている人がいるということ。一部の人は知っているが、大多数の人はしっていない。外から来た人がもっと利用できる場所がいっぱいあるということ発信していく必要がある。



## 今後の進め方（事務局）

20 : 30

・どのように皆様の意見を反映させていくのか、ということであるが、配った資料の足利市のように、提言書というような形で反映していければいいと思う。

・項目別に分別し、意見を集約し、まとめていく際の参考にしていただきたい。3月をめぐりに一度まとめていきたい。

今回は、現状と将来の展望をまとめていただいたが、特に矢板市の問題、環境や高齢者の問題などがでてきた。

・いいところ、わるいところを検討していただいたが、よいところは、これから市内外に発信していくところ、わるいところは、重点的に改良してかなくてはいけないところである。

・これで、ファーストステップのところは、終わったわけであるが、セカンドステップの矢板市の将来像のところを今後は進めていきたい。

・一言でいうと、10年後こんな市になってほしいというところを決めていきたい。

・皆様のやっていただいた作業を現計画で見るとはじめてから35ページのところまでの内容のところを話合えたと思う。

・今後は、35ページ以降のところ、また、表紙のところにある、「人・郷土・産業が調和した つつじの郷・やいた」のキーワードのところを検討していきたい。

次回の日程の確認 平成22年1月20日(水)

また、3回目までの一区切りとして、皆様の活動の様子をホームページ等で公開していきたいと思っているがよろしいか。

→ 了

副会長 〆の挨拶

**8 閉会 20:50**

# 《良いところ》

高原山の有効利用  
高原山トライアスロン  
市民発の花火大会

大学生のオリエンテーリング全国大会  
サッカーが盛ん

## イベント

市役所図書館付近は文教ゾーンとして  
良い風景

泉の小・中一貫校や統合による交流  
県立2校私立1校市外からの通学多い

## 教育

人材「まじめ」「誠実」  
若い人材が頑張っている

人が素朴である  
近所づきあいが残っている  
優秀な人材が多い

## 人

JR 国道高速が交差する有数の地域

日光 那須観光への中継  
ゴミのかが決められている

公共施設が一通りある  
施設利用料金が割安

塩谷郡2市2町の中心

自然啓蒙施設(県民の森)身近

## インフラ

ものが散在している

農業が盛ん

「林業」↓知恵で成長

とかいなか  
適度にいなか

お試しの家は情報発信によい

第2次産業の割合高い「ものづくり市」  
有名な大手企業  
シャープのイメージ

ゴルフ場が沢山ある  
産業がコツコツ取り組まれている

## 産業

自然が豊富  
高原山系の自然を活かした余暇

環境に対して積極的  
エコハウスプレミアムビレッジ

雪が少ない内陸性気候  
豊かな自然 日光国立公園の一部

## 自然

健全なイメージ

静かなまち「ホッとする」



# 《悪いところ》

## 自然資源の利用

- 景観法に基づく保全が不十分
- 観光スポットがあまりない
- 全国的で即活用可能な歴史施設がない
- 景観を損なう建物
- ゴルフ場利用者へのアピール不足
- 自然が生活産業・経済に組み込まれていない
- 自然資源を利用したイベントに対するニーズをキャッチできていない

## 産業 ②

- 交通が便利なのに企業がない
- 南産業団地に入っていない
- 大規模商業施設の立地が少ない
- 新規事業が生まれない風土
- 企業に頼りすぎ
- 雇用機会の減少
- 木材利用の普及をしていない
- 大手メーカーの城下町
- 企業の誘致が遅れた

## その他

- 市のイメージがわからない
- もっと良いことをPRすべき
- 矢板出身者のPR不足
- 衆議院が3区
- 人口フレームの設定現状維持ではだめ

## 地域医療 ①

- 独居老人の安否確認不足
- 地域医療の充実
- 総合病院の科の制限多い

## 人 ③

- 市民のあきらめ意識
- まちづくりへの無関心
- ボランティア活動の紹介不足
- 全般的に消極的
- 明るさ、積極性がない
- 優秀な人材の流出

## 行政 ⑤

- 行政に新しいことを行う意欲がない
- 行政に進展や熱意を感じない
- 民間が行政に無関心
- 生活情報が乏しい
- 行政の隙関係者に比べ周りの意識は低い
- 市の補助金のフォローがない
- 災害時の情報伝達不足

## インフラ ⑤

- 下水道普及率が低い
- 道路事情が悪い
- インフラ整備の遅れが目立つ
- 公園整備の遅れ
- 恵まれた交通インフラを活かしていない

## 教育 ③

- 教育に特徴がない
- 高等教育機関がない

## 環境 ④

- 森林が管理できていない
- スプロール化が進行している
- 公園が寂れている
- ゴミの不法投棄の場所がある
- 図書館・体育館の老朽化
- 公共施設が十分に活用されていない
- 古い校舎への統合疑問
- 公共施設の使用後汚い
- 中心市街地の停滞
- ボランティア活動が低調

# 《現状と将来》

大きな老人ホームの不足 783/806

市の人口減少

少子高齢化

老人施設の整備

一層の福祉の充実

適正化への移行

地域総合病院の経営・診療充実は難しい

保育部門において待機児童はなし

少子高齢化と人口減少

市の人口減少 特には30代と子供

市の人口減少 高齢化が進行

政策転換により良きも悪くも、...

人口減少 少子化 夫婦共働き 保育園 入園の希望増

一層の進行により 医療、福祉、年金、産業、まちづくりに影響

ボランティアNPO企業などの自発的な活動のひろがり

行政に対するニーズの多様化、複雑化に対応、長間とのパートナーシップ

## 福祉

## 観光

史跡指定を受けた歴史的な建造物

無形文化の掘り起こしと定着、花火、ともな祭り

観光資源となり得る可能性有

観光資源となり得る可能性有

集団の均一化(教育)

個の能力を伸ばす教育

サタデー・スクール(地域力)

## 教育

## インフラ

回車庫、文化会館、体育館の活用可能

道路整備は進んだが、実態はよならず

温泉施設が市内に数か所有

市の人口減少 高齢化が進行

施設の老朽化が進み時代に即した更新

協力的に関係性を持った取組による活性化

この数を維持していく(温泉数)

片岡地区、アクセスが良く、ホテル・プレミアムタウン、

検証→見直しを進め「住みたい街」に...

農業の部分特化(りんご)

農業就労者の高齢化

生産業の非正規労働者増加

内陸型工業県として成功している。

収入減による購買意欲の減、小売店の体力低下

企業リストラ推進

ショッピングセンターの極集中

外食店数の維持

有力店舗の近郊都市への進出

部分特化継続

高齢化、人口減により衰退

非正規労働者の常態化、所得低下

全世界的な競争の中でその地位がゆらいでいる

大型店や通販により小売店の淘汰

企業リストラ推進の増長

一極集中の増長による空洞化懸念

?

転出増長、空洞化の進行

木材価格の下落

高原山自然豊富、平地は限定的

国際化、人、もの、情報の交流活発化

公共工事の減少

事務所数減少(産業)

大手スーパーが多い

木材価格の低下、就労者減

木材の有効利用による住居型社会づくり

自然環境意識が高まり、地域注目の可能性有

海外市場開拓、外国人労働者の交流の多様化と深まり

雇用の減少

自他力へ興業

税金減

大きな転換が必要

## 1次産業

## 2次産業

## 3次産業



## 環境

環境への配慮を優先する考え方の広がりに

豊富な自然ハイオエネルギー 高原山を源とする自然

環境に配慮した再構築社会形成に向けた取組

自然環境意識が高まり、環境政策が必要

エネルギーを他県から購入

エネルギーを地域で自給

GDP重視

幸福度重視(フータン国)

このまま維持

右肩上がりの計画はやめる

環境、温室効果ガス削減 目標25%の対策

現状は平凡

ゴミのポイ捨て、看板が多い

ゴミ分類は自治体でばらつきがある

CO2削減に向け自然エネルギーの利用

エコハウスを模した農、林、観光産業一体の対策

清潔な街、道、農地

リサイクルの取り組みは多方面での連携が求められる

よその人、よその資源をあてにしない